

(社)日本原子力学会
第44回倫理委員会議事要旨

日 時 H21.5.22(金)13:30~17:50
場 所 (財)エネルギー総合工学研究所会議室
出席者 北村、大場、班目、小川、小沢、鐘ヶ江、作田、杉本、谷、辻、鳥飼、宮越、
三好、矢野(14名)
弘津(傍聴者)

配布資料

- 資料 44 - 1 第 43 回倫理委員会議事要旨(案)
- 資料 44 - 2 倫理規程検討事項
- 資料 44 - 3 日本原子力学会倫理規程の変遷
- 資料 44 - 4 原子力施設立地地域での倫理研究会の開催について(案)
- 資料 44 - 5 2009 年度秋の大会(9/16-18)企画セッション提案書
- 資料 44 - 6 (1) 平成 21 年度予算について
(2) 平成 20 年度収支予算及び実績表
- 参考資料 44 - 1 第 20 回 2009 年度新入社員意識調査(日本生産性本部)

議事

1. 資料 44 - 1 により前回議事要旨を確認した。
2. 班目幹事より資料 44 - 2 を用いて倫理規程改訂のアンケートによる検討の進捗状況の説明があった。これに関し次の点を確認した。
 - ・前文については「また、現代は、科学技術と(を)社会を(に)結び付けている企業ならびに行政、研究、教育等諸機関に、『倫理的でかつタイムリーな説明ができる活動を求めている。』『倫理的な活動を求めている。』ないしは『倫理的であることを求めている。』」のどれかとする方向で検討を続けることとした。関連して「タイムリーな説明」に関しては行動の手引への追加も検討することとした。さらに、この後に続く文章についても再検討することとした。
 - ・行動の手引 3 - 3 . については「会員は、経験から教訓を学び取る。特に原子力施設の事故や故障の経験からは、できるだけ多くのことを学び、その再発防止および類似の事故や故障の未然防止に努めるとともに、情報を共有化し、技術・知見の継承に努める。」とすることとした。
3. 大場副委員長より資料 44 - 3 を用いて、倫理規程改訂の変遷をまとめた結果の報告があった。委員全員で目を通した上で大場副委員長にコメントし、将来的には修正したものを倫理委員会のホームページに掲載することとした。
4. 鳥飼委員より資料 44 - 4 により原子力施設立地地域での倫理研究会の開催案の説明が

あった。地域の人々との交流ではなく事業者との意見交換を主目的として開催することとし、北陸電力志賀発電所を第一候補として先方に打診することとした。時期は11月の最終週を考えるとこととした。なお、会費等の徴収はせず、委員の旅費等は原則自己負担とすることとし、会議録の作成・公開等の有無については今後検討することとした。

- 5 . ケーススタディを中心とした倫理研究会を学生連絡会と共同開催することとし、鐘ヶ江委員、矢野委員が詳細検討を担当することとした。YGNにも声を掛けること、プログラム案等についてはメールで審議することとし、可能なら7月開催を目指すこととした。場所は東京大学とし、東大のGCOEとも共催とすることとした。
- 6 . 宮越委員より資料44-5を用いて2009年秋の大会の企画セッションの内容の説明があった。「原子力行政と倫理 - 安全文化の醸成と技術倫理のかかわり - 」というタイトルで、講演は原子力安全委員会の松浦前委員長に依頼済みである。コメンテーターは、原技協、技術士会などに依頼することとした。
- 7 . 谷委員より資料44-6(1),(2)を用いて平成21年度予算の説明があった。企画セッション講師の旅費・謝金などは今後予算を見直していくことになるが、本年度は赤字にはならない旨が説明された。なお、そのためにはケースブックの残部300冊の販売が必要であり、努力することを確認した。
- 8 . 鳥飼委員より2009年度新入社員意識調査の紹介があった。「良心に反する手段でも指示通りの仕事をする」が過去最高であることに関して意見交換を行った。
- 9 . 次期理事会への申し送り事項については、委員長、副委員長、幹事が作成し提出することとした。
- 10 . 次回は7月28日ないし29日に開催することとした。